

# これからの梨の栽培管理について (第8号)

令和4年9月29日  
なのはな農業協同組合  
富山県富山農林振興センター

本年は、5～6月に黒星病の発生が多かったものの、生産者の皆様の精力的な対策の実施によって、収穫果実への病斑の発生は少ない状況でした。

ただし、今後、徒長枝等の葉に黒星病秋型病斑(右写真)が発生する時期となり、これが来年の黒星病の発生源となります。**来年の黒星病の発生を防止するため、秋季防除や落葉処理の徹底をお願いします。**



写真 黒星病秋型病斑(薄墨色の黒い斑点)

## 1 これからの防除について

黒星病秋型病斑葉の発生防止のため、「あきづき」収穫終了後に特別防除を実施します。また、19～21回目は来年の芽基部病斑発生防止のための防除となります。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	散布量	主な対象 病害	防除 実施日
特散	10月7～ 9日頃 (「あきづき」 収穫終了後)	オーソサイド 水和剤 80 1,000倍	3日 (※)	300 g/10a	黒星病	
19	10月21～ 23日頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日 (※)	300 g/10a	黒星病	
20	10月31～ 11月2日頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日 (※)	300 g/10a	黒星病	
21	11月10～ 12日頃 80%落葉後	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日 (※)	300 g/10a	黒星病	

### 【注意事項】

- ※ 収穫前日数が3日の薬剤散布後、3日間(72時間)は収穫できません。「新高」や「新興」等、周囲の収穫園にも十分気を配りましょう(万が一、散布後72時間以内に収穫してしまった場合は、果実を廃棄してください)。
- ※ 現在収穫中の周囲の園地に農薬が飛散しないよう十分注意して散布してください。

## 2 本年も必ず、確実に落葉処理を実施してください！！

黒星病秋型病斑が着いた落葉を放置すると、翌春、地表面から黒星病菌胞子が飛散し、幼果への病斑発生の危険性が高まります。**特に、園地周囲や側溝、幹元に落葉が残らないよう十分注意してください。**

### (1) 実施時期

11月中下旬(落葉後)～2月末 (確実に処理を行うため、可能な限り年内に実施してください。)

### (2) 落葉処理の方法

- ①落葉処理の精度が低いと十分な効果を得ることができません。
- ②園地周囲や側溝、幹元の落葉(次ページ図)は、松葉ぼうき等で集めて処分する、園地内部でモアやロータリー等を使用する場合は、低速で走行する等、丁寧に葉を粉砕し、すきこんでください。

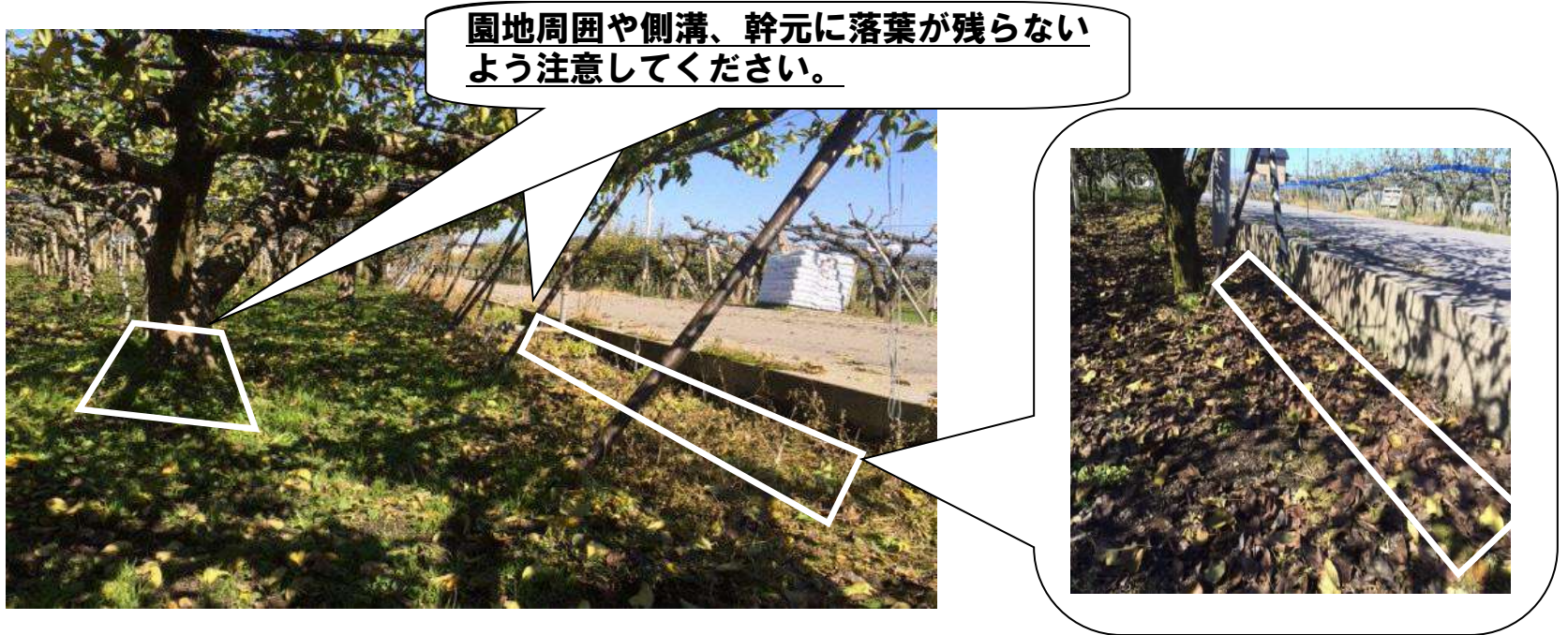


図 園地周囲や側溝、幹元の落葉

**【処理機械別の機械速度、処理時間（目安）】**

処理機械	機械速度、処理時間等
乗用モア	2回処理（1回につき10aを45分かける）
ロータリー	1km/h以下の速度で、10aを60分以上かける
乗用モアとロータリーの併用	・モア：10aを30分かける ・ロータリー：1.5～2km/hの速度で10aを45～60分かける

※落葉処理の未実施あるいは処理精度の低い園地は、自園地のみでなく、近隣園地（他の生産者）にも被害を及ぼします（産地全体での取り組みが重要です）。

**（3）落葉処理の留意点**

- ①雑草が繁茂している場合は、落葉をかき集めやすくするため、あらかじめ草刈りや除草剤散布等をしておきましょう。
- ②葉の原形が地表面に残ったままだと、病原菌が越冬します。機械による粉砕や耕起は十分に行ってください。
- ③チップパー等で粉砕したせん定枝を園内に放置しても、黒星病の発生には影響しないとされています。ただし、粉砕後に落葉と一緒にロータリー等で耕起し、すき込むと土壌性病害（白紋羽病）の発生を助長させるので、注意してください。

**本年、病害虫対策研修会を下記のとおり開催します。ぜひ参加されますよう、お願いします。**

**日 時 令和4年10月22日(土)**

**第1部 13:15～14:45（追分・吉作・東老田・中老田地区生産者対象）**

**第2部 15:15～16:45（住吉・花ノ木・南部・射水地区生産者対象）**

※第1部、2部とも同様の内容です。

**場 所 多目的研修梨会館**

**内 容 ①本年度の黒星病発生要因と次年度対策について**

**②近年発生の多いカメムシ・カイガラムシの発生動向とその対策について**